

寺田寅彦に「野球時代」というエッセイがあります。

「明治二十年代の事である。今この思い出を書こうとしている老学生のまだ紅顔の少年であったころの話である。

太平洋からまともにはげしい潮風の吹きつけるある南国の中学にレコードをとどめた有名なストライキのあらしのあった末に英国仕込みでしかも豪傑はだの新しい校長が卒業したての新学士の新職員五六人を従えて赴任すると同時にかび臭いこの田舎（いなか）の中学に急に新しい文化の風が吹き込んで来た。

その新文化の最も目ざましい表象として維新時代の夢のまださめ切らなかった生徒たちの心に強い印象と衝動を与えたものはベースボール、フットボール、クリケット、クロケーそれからボートレースなどの新遊戯であった。

若く元気な生徒らの目にはどこかの別の世界から天下（あまくだ）って来たような法学士、農学士、文学士の先生たちがシャツーツになって校庭で猛烈な練習をリードした。

生徒らの目には世界が急に素量的に飛躍したように感ぜられた。そうしてさらに次にきたるべき時代への希望と憧憬（どうけい）といったようなものが封建期の子供らの頭の中に勢いよく芽ばえ始めたのであった。」

ということで始まった日本の野球が、今年、とうとう、MLBにおいてまで、日本野球で始まり、日本野球で終わった一年と言えるまでになったと思います。

3月のMLB主催のWBCでは日本の2連覇、レッドソックスの松坂投手がMVPを獲得し、更に、レギュラー・シーズンではマリナーズのイチロー外野手がMLB史上初となる連続9年200本以上の安打を打ち、更に更に、ポスト・シーズン、ワールド・シリーズでは Yankees の松井（秀）外野手がMVPを獲得するなど、MLBの各球団に散らばった選手たちが大活躍しました。

野茂投手が、1995年にロサンゼルス・ドジャースに日本人メジャー・リーガーのパイオニアとして移籍して以来、日本人メジャー・リーガーにとって一番派手な1年であったと思います。

野茂投手が奪三振と2度のノーヒット・ノーラン以降、日本人メジャー・リーガーの活躍と言えば、イチロー独りと言っても過言ではなかったと思います。

確かに、井口内野手・田口外野手・松坂投手・岡島投手はチャンピオン・リングを手にしていますが、今年のイチロー外野手や松井（秀）外野手ほどの活躍は見せてはいません。

そして、最後に、寺田寅彦は、

「午後の茶をのみながら、彼と研究をともにする若い学者たちに彼のしなびた左の薬指の第一関節における約二十度の屈曲を示し、「僕だってそうばかりにしたものでもないよ」、そんなことをいっては皆に笑われながら、三十余年前の手製のボールのカーンとくる手ごた

えを追懐しているであろう。」

と結んでいます。

村上雅則投手がサンフランシスコ・ジャイアンツで村上雅則投手が投げて以来45年、同時代に活躍し、今、引退している選手達も、今年の日本人メジャー・リーガーイチロー外野手や松井（秀）外野手の活躍を見ながら、

「午後の茶をのみながら、彼が指導する少年野球の選手たちに彼のしなびた左の薬指の第一関節における約二十度の屈曲を示し、「僕だってそうばかにしたのものでもないよ」、そんなことをいっては皆に笑われながら、四十余年前の思い出のボールのカーンとくる手ごたえを追懐しているであろう。」

と思われます。

< 寺田寅彦 (1878-1935) >

随筆家、地球物理学者。東京市麹町区（現在の千代田区）生まれ。東京帝国大学卒。

航空研究所、理化学研究所、地震研究所、東京帝国大学（教授）などに所属、大正12年（1923）45才の時、関東大震災に遭遇し、火災旋風などの調査に従事する。



「天災は忘れた頃に来る」という言葉を言い出したのは寺田寅彦であるといわれている。漱石の門下生でもあり、吉村冬彦の筆名で数多くの随筆を書いている。作品に『漫画と科学』『科学と文学』『西鶴と科学』『珈琲哲学序説』『神話と地球物理学』などがある。

報知：「神が降りてきた イチ打！ 延長10回V打」(3/25)

日本中の視線を独占していることが快感だった。この男はどこまでも不敵だった。同点の延長10回2死二、三塁。イチローは自らを客観視していた。「ここで打ったら日本でもすごいことになるだろうなと思って（打席に立ち）自分で実況していた」韓国の守護神・林昌勇の8球目のシンカーをはじき返すと、低く鋭い軌道が中前へ描かれた。「僕は（ツキを）持っていますね。最終打席では神が降りてきました」優勝に導く決勝2点打という大会のハイライトとなるシーンを、独特のセリフで振り返った。

苦しみ抜いた末のハッピーエンドだった。強化試合から調子は上がりず、第2ラウンド最初の2試合で9打席無安打。東京ラウンドからの通算打率が1割台に低迷した。昨年に日米通算3000安打も達成した自分が、打撃不振で足を引っ張っている現実。「苦しいところから始まって、苦しさからつらさに変わり、つらさを越えたら痛みになった。痛点では感じない痛みを経験した」それが決勝では6打数4安打2打点。「(今大会は)谷しかなかったけど、最後に山を登れてよかった」終わってみれば今大会最多タイの12安打をマーク。WBC通算17試合で3度目となった“猛打賞”は、すべて韓国戦で達成したもの

となった。

日経：「イチロー、大リーグ史上初の「9年連続200安打」(9/14)

米大リーグ、マリナーズのイチロー外野手(35)は13日、テキサス州アーリントンのレンジャーズ・ボールパークで行われたレンジャーズとのダブルヘッダーで各1安打を放って今季200安打とし、大リーグ史上初の9年連続200安打を達成した。

イチローは昨季、ウィリー・キーラー(オリオールズなど)が1894年から1901年に記録した8年連続に並び、今季出場128試合目で100年以上破られなかった記録を更新する快挙を成し遂げた。

200安打まであと2本としていたイチローは、雨で約4時間半遅れて始まったダブルヘッダーの第1試合で三回に左翼線二塁打。この試合は1安打で、続いて行われた第2試合の二回に遊撃内野安打を放って記録達成。一塁上でヘルメットを掲げて歓声に応えた。

日経：「ヤンキース9年ぶり優勝、松井秀がMVP ワールドシリーズ」(11/5)

米大リーグのワールドシリーズ(7回戦制=4戦先勝)は4日、ニューヨークのヤンキーススタジアムで第6戦が行われ、ヤンキース(ア・リーグ優勝)が松井秀喜外野手の6打点の活躍で2連覇を狙ったフィリーズ(ナ・リーグ優勝)を7-3で下し、4勝2敗で9年ぶり27度目のワールドチャンピオンに輝いた。

松井秀は入団1年目だった2003年以来、6年ぶり2度目の同シリーズ出場で自身初の“世界一”をつかみ、同シリーズで日本選手初の最優秀選手(MVP)に選ばれた。日本選手所属球団のシリーズ制覇は5年連続。

松井秀は二回に先制の右越え2点本塁打を打つと、2死満塁の三回には中前へ2点適時打。五回には右中間へ2点二塁打を放った。七回の第4打席は三振で、4打数3安打6打点だった。

1試合6打点は、1960年の第3戦でのヤンキースのリチャードソンに並ぶワールドシリーズ最多タイ記録。

松井秀はひざのけがで今季は守備に就く機会がなかったが、随所に勝負強さを発揮してチームに貢献した。



WBC日本2連覇、厚監監督おげ(共同)



MLB史上初9年連続200安打のイチロー(共同)



ワールドシリーズMVPの松井秀喜(共同)

<野茂英雄 (1968-) >

元プロ野球選手 (投手)。大阪府大阪市港区出身。成城工高卒。

1995年にロサンゼルス・ドジャースに移籍し、日本人メジャー・リーガーのパイオニアとして活躍した。大きく振りかぶってから背中を打者に向ける独特の投法は「トルネード投法」と呼ばれ、ノビのあるストレートと2種類のフォークボールを武器に、多くの三振を奪い、

現役時代は「ドクターK」の異名をとった。

社会人野球の日鐵堺では、1988年のソウル・オリンピックでは銀メダル獲得に貢献、日本プロ野球の近鉄時代には、新人の年に、17奪三振の1試合奪三振数日本タイ記録 (当時) を樹立し、最多勝利、最優秀防御率、最多奪三振、最高勝率と投手タイトル四冠を独占した。その後、新人年から4年連続、最多勝利と最多奪三振のタイトルを獲得したのは、野茂投手のみである。

MLBでは、ロサンゼルス・ドジャースで新人王・奪三振王・日本人メジャー1号本塁打の記録をするなど、7球団で活躍、対ロッキーズ、対オリオールズ戦において2度のノーヒット・ノーランを達成している。

その他、ベストナイン、新人王、沢村賞、MVPにも輝き、日米17年での投手成績は、通算201勝155敗である。

<村上雅則 (1944-) >

日本人初のメジャー・リーガー (投手)。山梨県出身。法政大学第二高等学校卒。

プロ野球の南海 (現ソフトバンク) 時代の1964年に、当初6月中旬までの予定で、メジャーリーグ・サンフランシスコ・ジャイアンツ傘下のマイナーチーム・1Aのフレズノに野球留学で派遣されたが、突然メジャー昇格を言い渡され、9月1日のニューヨーク・メッツ戦に日本人として初めてメジャー登板を果たし、9月29日にコルツ (現アストロズ) 戦の9回同点の場面で登板して11回までを無失点に抑えて、初の日本人メジャー勝利投手となった。

MLBではジャイアンツに2年在籍し、その後日本球界に復帰、南海・阪神・日本ハムで18年間活躍、日米の通算成績は、108勝83敗39セーブである。



春秋：「ゴジラとモーツァルト」(11/6)

ゴジラとモーツァルト。何だか妙な取り合わせだが、ニューヨーク・ヤンキースの松井秀喜選手は小学生のころ、自宅でピアノのレッスンを受けていたという。いつもクラシックを聴いて眠り、今もモーツァルトが大好きなのだそうだ。

鍵盤をたたくよりもバットの振りに鋭い牙(さ)えをみせるようになった少年はやがて巨人軍に入り、栄光の道を歩む。普通ならそこで満足するに違いない。なのにあえて米大リーグに挑み、しかも名門球団に身を置いた決断は記憶に新しい。「行ってよかったな、と言われるように頑張る」とは移籍するときの言葉だ。

ほんとうに「行ってよかった」のだと祝福したい。夢を追いかけ、いくたびか訪れた危機を乗り越えた不屈の人がワールドシリーズの最優秀選手(MVP)に選ばれた。日本人で初めての快挙である。球団のシリーズ制覇を決めた試合で爆発させた3安打6打点は、渡米から7年間の労苦に咲いた大輪の花だろう。

骨折が癒えず、右手だけのキャッチボールが日課だったころもモーツァルトに慰められたというゴジラだ。幼いころから天才と呼ばれながら、最上の場を求めて欧州を巡った作曲家の思いに自身の夢が重なるのだろうか。ここではなく、もっと遠くへ。縮みがちなニッポン人を勇気づける交響曲が聞こえる。

<ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-1791)>

作曲家。ハイドン、ベートーヴェンらとともに古典派と呼ばれる。オーストリアのザルツブルク生まれ。

父・レオポルトは息子が天才であることを見出し、音楽家としてザルツブルク大司教ヒエロニムス・コロレド伯の宮廷に仕える。



一方でモーツァルト親子は何度もウィーン、パリ、ロンドン、およびイタリア各地に大旅行を行う。

1781年、25歳ではザルツブルクを出てウィーンに定住。ウィーンではピアニストとして人気を誇った。

しかし、モーツァルトに怖れをなした宮廷楽長・アントニオ・サリエリらのイタリアの音楽貴族達が裏でモーツァルトの演奏会を妨害した為、生活が苦しかったとする説もある。1791年、ウィーンでレクイエムの作曲中に35歳の若さで没した。

代表的な作品として『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『魔笛』『レクイエム』『交響曲第25番、第38番「プラハ」、第39番、第40番、第41番「ジュピター」』、協奏曲、弦楽四重奏曲、弦楽五重奏曲、室内楽曲、セレナード、ピアノソナタなど作品総数は断片も含め700曲以上に及ぶ。

天声人語：「日本人初のMVP」(11/6)

7年前、大リーグ挑戦を決めた松井秀喜選手は、記者会見で一度も笑わなかった。「何を言っても裏切り者と思われるかもしれないが、いつか『松井、行ってよかったな』と言われるよう頑張りたい」。そう、本当によかった。

背番号55の大活躍で、ヤンキースがワールドシリーズを制した。粘っての先制ホームラン、2本のタイムリーとも胸のすく当たりだった。

栄冠には、日本人初の最優秀選手(MVP)という宝石がついた。

オノをぶん回すような巨体がそろう米国では、勝負強い中距離打者の印象が強い。イチロー選手がカミソリなら、ゴジラはナタの切れ味だろうか。どっしりと構え、狙いすまし、しなやかに一撃を見舞う。

耐える男に見える。右足で細かく間合いをはかり、総身に火薬を満たしてなお、きわどい球を見送る。会心の一発が出れば、喜びを押し殺してベースを回る。けがやスランプを理由に取材を拒むこともなかった。

「巨人の大4番」を捨てた最初の選手である。日本にとどまれば何度もタイトルを取ただろう。ワールドチャンピオンにしても、何人かの日本人が先に経験した。4年契約の最終年、新装のヤンキースタジアム。野球の神様は、最後の最後に「マツイの日」を用意していた。

辛口で鳴らすニューヨークのファンが総立ちでMVPコールを送る。くしゃくしゃの相好で大男たちと抱き合う姿に、そうか、7年分の笑顔なんだと納得した。自分を裏切るな、迷った時は挑戦せよ、倒れるなら前に。いくつものエールを発する、いい顔だった。

<ゴジラ>

東宝が1954年(昭和29年)に公開した特撮怪獣映画『ゴジラ』に始まる一連のシリーズ作品及び、それらの作品に登場する架空の怪獣の名称である。これら一連のシリーズ作品のことを「ゴジラ映画」と呼ぶ。



1954年創作され、同年ビキニ島の核実験によっておきた第五福竜丸事件をきっかけに、身長50メートルの怪獣ゴジラは「核の落とし子」「人間が生み出した恐怖の象徴」として描かれた。観客動員数は961万人を記録。

この成功を受け翌年に第2作『ゴジラの逆襲』が制作され、その中で描かれた「怪獣同士への対決」が以後のゴジラ映画のベースとなった。

編集手帳：「神様がバットに」(11/6)

ゴジラは英語で「GODZILLA」と綴(つづ)る。神様(GOD)が愛称内の神殿を留守にし、バットに、それも真芯に降臨したかのようである。

米大リーグのワールドシリーズで、ヤンキースがフィリーズを下して9年ぶりの優勝を果たし、松井秀喜選手が日本人選手として初めてシリーズ最優秀選手(MVP)の栄冠を手にした。先制2ランを含む4打数3安打6打点は見事の一語に尽きる。

万全の体調で迎えたシーズンではない。昨年9月に左膝(ひざ)を手術し、オープン戦はリハビリで出遅れた。放出・移籍の噂(うわさ)が流れたこともある。つらい時期があったろう。

思えばマリナーズのイチロー選手も今季、胃潰瘍(かいよう)から始まって大リーグ史上初「9年連続200安打」の偉業を成し遂げている。天才とは際限なく苦痛に耐えうる能力をいう。名探偵シャーロック・ホームズが「緋色(ひいろ)の研究」で語った言葉だが、この2人を見て深くうなずく。

膝の不安はいまも抱えたままと聞く。GODさま、愛称内もバット内もしばらくは留守にして、オフのあいだは膝のほうにお宿り下さい と、ファンに成り代わって祈っておく。

< GODZILLA >

1998年に製作されたハリウッド特撮映画。

チェルノブイリで放射能が生物に与える影響を研究するために標本のミミズを収集している生物学者のニック・タトプロスが、研究を中断し、南太平洋の海難事故調査に赴む。



そこで、フランスがタヒチ周辺で行っていた核実験の影響で誕生し GODZILLA の15メートルを超える巨大な足型や座礁したタンカーに開けられた横穴と残された肉片を発見する。

GODZILLA は餌場として、また巣作りの場として世界最大の都市のひとつニューヨークを目指し、地面と空気を揺るがしながらハドソン川より上陸、ニューヨークを舞台に、人類と GODZILLA の戦争が始まる。

余録：「ヤンキースが好き」(11/6)

1985年のことだ。ニューヨーク・タイムズなどが米国で行った世論調査で、知っている日本の有名人を挙げよという項目があった。挙げた名のベスト3は昭和天皇、ブルース・リー、そしてゴジラだった。

天皇以外は、香港の俳優と映画の怪獣という結果だ。批評家は自動車や家電製品が米国市場を席卷しつつあった日本への米国人の無知を嘆いたが、ゴジラが日本を代表するキャラクターとして浸透していたのも分かった(W・M・ツツイ「ゴジラとアメリカの半世紀」中公叢書)。

米国ではゴジラバーガーなどというように大きなものをはじめ、恐るべきもの、頑固なものを表すゴジラだ。日本でのニックネームをそのまま背負ってのヤンキース入りから7年、松井秀喜選手が初のワールドシリーズ制覇をその活躍で実現し、最優秀選手(MVP)に選ばれた。

この間、3年前からは骨折やヒザの故障などに悩まされ、限界説もささやかれた松井選手である。迎えた契約の最終年、念願の世界一を勝ち取った試合は先制2ランを含む3安打の大暴れで、6打点はシリーズ2度目となるタイ記録だった。

「何か、夢みたいです」とは、自らの腕で長年の夢をかなえた人の実感かもしれない。試合中から「MVP」コールがわき起こり、試合後の「やはりヤンキースが好きです」の言葉がスタンドの大喝采(かっさい)を浴びたニューヨークのゴジラだった。

もしも日本人の名を挙げる調査が今行われても、ゴジラと答える米国人は多いかもしれない。だが、それは回答者が日本人を知らないからではなく、ヤンキースを9年ぶりの世界一に導いた選手の恐るべき力をその目で見たからだ。

<ブルース・リー(1940-1973)>

中国人俳優、武道家。截拳道(ジークンドー)を創始したマーシャルアーティスト。本名李振藩(レイ・ジュンファン)。サン・フランシスコ生まれ。ワシントン大学哲学科中退。



1966年の「ロングビーチ国際空手選手権大会」での演武が、TVプロデューサーの目に止まり、TVシリーズ『グリーン・ホーネット』の準主役に抜擢、俳優の道に入る。1971年香港映画ゴールデン・ハーベストで初主演した『ドラゴン危機一発』が香港の歴代興行記録を塗り替える大ヒットになり、一躍、香港のトップスターになる。

1973年のアメリカと香港の合作映画『燃えよドラゴン』でアメリカに進出、ドラゴン・シリーズで一世を風靡。

主演の作品に『ドラゴン危機一発』『ドラゴン怒りの鉄拳』『ドラゴンへの道』『死亡遊戯』など多数。